

子どもと教育・文化を守る

# 大阪府民会議ニュース

事務局 大阪教職員組合書記局内

TEL 06・6768・2330

FAX 06・6768・2239

発行 2010年11月1日

NO. 3

メールアドレス  
daikyoso@  
daikyoso.jp

## 教育全国署名の取り組みが各地で

大阪 団体

### 統一宣伝行動

10月23日(土)に、JR京橋駅で4時から1時間、署名宣伝行動を行いました。60人が参加する大宣伝となり、535筆の署名が寄せられました。例年、恒例となっている統一宣伝行動でしたが、この日は参加者数、署名数とも最高を記録し、参加者も励まされる楽しい行動となりました。



参加者 感想

風船を準備し、子ども連れの親子や高校生が多く署名するなど、にぎやかでよい雰囲気の一行動となりました。

駅前の広場は、風船と署名板を持った宣伝隊と足を止める親子、高校生などあちこちでたまり場ができていました。自分からすすんで署名をしに来てくれる人が多かったです。大阪府警勤務という男性は「こんなに給料下げられたら大変、橋下知事、許されん。小泉と一緒に」と話し、署名をしてくれました。

### 各地域 宣伝

各地から宣伝行動の様子も伝わってきました。

10月16日(土)に枚方で、10月20日(水)に豊中で署名宣伝行動が取



り組まれました。枚方からは、日本の教育予算が先進国で最低であること、学級定員も先進国で最も大きいことなどを訴える道行く市民が次々、署名に協力してくれるようになった、署名しながら「教育費が高すぎる」「金がないと学校に行けないなんておかしい」「子どもの私学助成の署名もやっている、がんばってください」など対話が広まった、ということでした。

# 私学 守

## 怒 府庁包囲 光

大阪の私学を守る府庁包囲・光のパレードの当日、午後6時より、谷町1丁目交差点で宣伝行動（ピラ配布と宣伝カーからの訴え）を行いました。

この宣伝行動には、京都や兵庫、そして新潟から支援に駆けつけていただいた教員・父母の参加、さらに、各分会から若手の教職員もたくさん参加し、賑やかに宣伝。ピラの受け取りも良く、約30分間の宣伝行動でしたが、500枚以上配布しました。

午後7時から開会の府庁前集会には300人が集ま

りました。司会は名司会でおなじみの金光藤蔭高校・的場恵美さんと、東海大仰星高校・若杉雅代さんです。



中西委員長の開会挨拶、岩井書記長の基調報告のあと、全国私教連小村英一委員長

が連帯と激励の挨拶を述べました。

小村委員長はまず、この集会に千葉、東京、新潟、京都、兵庫、岐阜、神奈川のなかまが応援に駆けつけていることを紹介。「10月

6日の読売新聞の記事に各県私学に激震が走った」「私学はなくていいといわんばかりの措置だ。助成金の配分基準をめぐっては30年以上かけて改善もし、要求もしてきた。それが一挙に覆される」「こんな無法な制度が導入されると、全国的に一気に広がりかねない。全面撤回しかない」と訴えました。大阪私学助成をすすめる会の一之瀬良子会長は「公立も私学も関係ない、私学にも公立と同じだけお金を使ってくださいといい

たい」「橋下知事の“がんばる学校に手厚く”などという言葉のマジックにだまされないように訴えて欲しい。子どもが笑顔でいられるよう共にがんばりましょう」と呼びかけました。

西岡副委員長の閉会挨拶、デモの諸注意のあといいよ。光のパレード”。先頭は中央支部の力作、段ボールをくりぬき光のバトンとくみあわせて“私学を守ろう”のスローガンが夜目にも輝きます。各支部のちょうちん、光のバトンでデモ隊は十分注目を集めました。この集会には明浄学院高校・瑠東（ルトウ）校長、箕面学園高校・宮城校長も参加。参加者は大いに励まされました。（私学おおさか第1210号転載）

# 規制緩和で子どもたちの権利は守れるのか?!

## 緊急シンポジウム開催

2010年6月29日、少子化社会対策会議は、「子ども・子育て新システム基本制度案要綱」を決定しました。来年の通常国会に法案を提出するためテンポを速めて準備が進められています。「新システム」は、保護者の負担を増大させる「応益負担」「直接入所方式」や、施設経営・運営を不安定なものにする「個人給付制」などの方式を「保育・子育て・学童保育」の分野に導入しようとするものです。また、政府は「新システム」を「新成長戦略」にも位置づけており、この

機会に子育て・保育・教育の「市場化」をねらっています。「新システム」の具体的な中身がほとんど保護者や自治体、保育関係者に知

らされていない実情がある中、次のような緊急シンポジウムが開催されます。

誘い合っただけのご参加、よろしく願います。

(大保連ニュース参照)

## 緊急シンポジウム

子どもの権利保障から  
「子ども・子育て新システム  
基本制度案」を検証する

日時 11月20日(土) 午後3時~6時

会場 大阪保育運動センター

(地下鉄谷町線「谷町6丁目」「4号出口」徒歩3分)

参加費 1000円

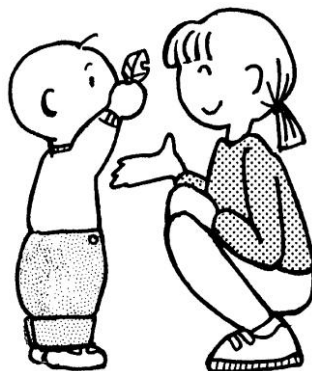
### シンポジスト

- ・「子どもの権利」と「新システム」  
杉山 隆一 氏 (大阪保育研究所)
- ・経済学の視点から「新システム」を考える  
田中 きよむ 氏 (高知女子大学)
- ・保育を受ける権利と「新システム」  
河村 学 氏 (弁護士)

コーディネーター

平沼 博将 氏 (大阪電気通信大学)

主催 大阪保育研究所



## 地域子育てネットの紹介

### 子育てと教育を考える

#### 西淀川ネットワーク

#### (西淀子育てネット)

1993年に結成された西淀子育てネットは、今年9月に第18回総会を迎えました。『かがやけ西淀の子どもたち』(テーマソングタイトル)を合い言葉に、毎秋の「子育てのつどい」を始め、学習交流会、地域懇談会、青年の居場所や共生ホームづくりに取り組んできました。今年の「つどい」は11月23日、元中学校教員小部修先生を講師に『子ども・子育ては面白い!〜子どもとどう向き合い、どうつながるか』のテーマで開催します。

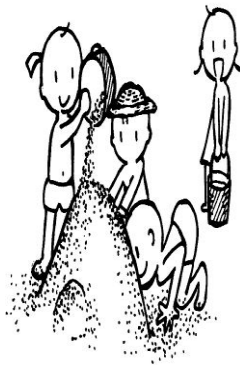
西淀ネットの特徴は、地域の様々な団体とのつながりが強いこと、事務局メンバーに学童OBなど若い世代が参加していることです。先日も、新事務局員を含めて白浜で合宿を行いました。17年の歩みの結晶とも言える60号までの

『子育てネットニュース縮刷版』で歴史を振り返りながら、子どもと高齢者の交流会、先生を交えた地域の子どもたちとの勉強会、地域の戦争体験聞き取り、フィールドワーク、研修旅行、落語会や映画会など、20周年に向けて取り組みたいことを出し合いました。子育て教育にかけられている攻撃、虐待問題など課題はつきませんが、あせらず、でも着実に地域のネットワーク

ークを広げていきたいと思  
います。

(西淀子育てネット

事務局長 門谷 充男)



#### (編集後記)

10月6日の読売新聞に「生徒一人一律28万円」という見出しが載りました。生徒全員に教育費の助成をするのかと一瞬、勘違い。

自身は府内の私立高校への府の運営費(経常費)助成を、これまでの教員の人件費や学級数などで算定していた方式から、来年度、生徒数に応じて助成、また進学やスポーツなどの実績も評価しての配分とする方式に改める方針であるという記事です。生徒数が多いか少ないか、進学実績があるかどうかで助成するなら、学校が生徒の獲得競争や進学実績をあげることに躍起となり、学校教育そのものが変質したり、私学の経営困難を引き起こし私学つぶりともなります。さらに橋下知事は公立高校と私学との競争で公私の淘汰・変質をねらっているのでしょうか。そのような「教育つぶり・学校つぶり」は府民の誰も望んではいません。一つひとつの施策の真のねらいをしっかりとつかみ、広く府民に知らせ、全ての生徒が教育の機会を保障され、主権者として成長できる学校教育前進のため共同の力で取り組んでいきましょう。(S)